

祝・学会各賞受賞！！ —受賞者のコメント—

Congratulations on Winning the Prizes!! —Comments from Prize Winners—

2010年度の不動産学会・都市計画学会の各賞が発表され、江口久美さんが不動産学会湯浅賞、中島直人さんが都市計画学会年間優秀論文賞、野原卓さんが都市計画学会論文奨励賞を受賞しました。受賞者の喜びの声をお届けします。

text_kitagawa

自治体首長を対象とした 都市デザイン教育に関する研究

—米国における都市デザイン市長協会（MICD）の活動に着目して—

慶應義塾大学環境情報学部専任講師 中島 直人

本研究で扱った都市デザイン市長協会の存在を知ったのは、イェール大学のプラッタス先生との最初のミーティングでした。先生自身がたまたまその翌週に都市デザイン市長協会のセッションに参加されるというタイミングだったので、この協会の活動が話題になったのです。協会創設者でニューヨークのアーバンデザイン行政の創始者でもあるジャクリン・ロバートソン氏を紹介して下さったのも、プラッタス先生です。その後、本研究でも大いに役立ったジョナサン・バーネット・ペーパーについての、やや興奮気味の近況報告メールに対して、北沢先生から最後のアドバイス（激励でした）を頂いたことを思い出します。今回の受賞は、お世話になった両先生に捧げます。どうも有り難うございました。



▲プラッタス先生とアンドレイ氏



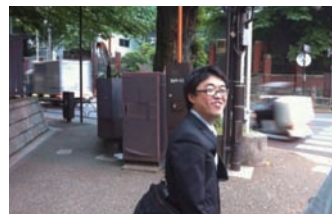
▲バーネットの『都市デザインの手法』

日本の工業都市空間における計画概念と その実践的展開に関する研究

—生産空間と生活空間の関係性に着目して—

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授 野原 卓

都市が持続的社会的空間であるならば、そこでは、「生活（住む）」のみならず、働いたり何かを生み出したりする「生産」も、重要な都市活動の一つであるにもかかわらず、この部分は都市計画ではやや脇に置かれているのではないかと感じていたこと、そして、横浜都心部（インナーハーバー）の一部としての京浜臨海部のあり方を考える必要性を感じたことをキッカケとして取り組んだものです。この論文は、研究やプロジェクトも含めて長年ご指導いただいた故北沢猛先生とともにある論文でもあります。先生に、心から感謝申し上げるとともに、この想いを胸に、実際の都市空間を少しでもよいものにしていくお手伝いを続けていきたいと思っています。



▲野原先生（羽藤先生撮影）



▲京浜臨海部を眺める

1890年代から1930年代の古きパリ委員会による 歴史的環境保全に関する研究

—歴史的記念物をめぐる都市的視点の導入と展開—

先端研客員研究員 江口 久美

博士論文のテーマは、パリの都市形成と包含する都市としての魅力への大きな興味から選んだものです。田中暎子さんとの共同研究プロジェクトにおいて、20世紀初頭に現在のパリのあり方の基礎を築いたのが古きパリ委員会であったと伺い、博士論文でも研究させていただきました。19世紀のオスマン化を経て近代化の波にさらされたパリが、近代化を受容しつつも、いかに都市の保全的刷新を実現してきたかについて明らかに致しました。最後に、このような賞をいただくことができ、ご指導いただいた先生方、そして諸先輩方に大変感謝致しております。ありがとうございます。今後もより一層精進を重ねていきたいと考えております。



▲サン・ルー教会（1916年）



▲1区区役所（1919年）

大槌復興PJ始動！

Restoration Project in Otsuchi

5月末から、社会基盤学専攻景観研究室とともにスタートした岩手県大槌町の震災復興プロジェクト。今回はその現地訪問報告を速報します。

text_kitagawa

5月31日（火）に安渡小学校で第一回「大槌復興まちづくり住民会議」が開催されました。東大からは、永瀬助教、安川、李、大森、北川が参加しました。初めての住民会議ということもあり、住民のみなさんも真剣に色々なアイデアやまちに対する思いを話されていて、議論が活発に交わされていたことが印象的でした。今後も継続的に現地調査を重ねて復興まちづくりのあり方を考えていきたいと思っております。



▲小学校の廊下で行われた住民会議



▲木造の仮設住宅建設が進む

留学生コーナー第 12 弾！

An Essay by International Student vol.12

My Favorite Town in Tokyo, Kagurazaka.

D2 田乃魯

In Tokyo, Kagurazaka is my favorite place to go.

The first time when I visited Kagurazaka is on the third day of my arrival in Tokyo. That day I together with my friends found it by accident when hanging around near my dormitory. Kagurazaka is a narrow uphill street lined with shops and stores, which attract a great deal of pedestrians, and full of liveliness. Compared with the wide roads and high buildings surrounding it, Kagurazaka is totally in another world. At that time we were pulled into it like the other people.

The street is full with archaic and elegant Japanese style that combines with soft western flavor harmoniously. The scene in Kagurazaka, from patterns of pavements to designs of streetlamps, from adornments of stores to looks of pedestrians in kimono, can not be seen in anywhere else except in Japan. When turned

into a narrow alley in Kagurazaka, you would feel another kind of tranquility. In the labyrinth of alleys, the historic stone floors and Japanese style houses fascinate every person lingering there. At that moment, past coexists with present, which makes charming atmosphere.

In Kagurazaka, not only kimono shops, tearooms and restaurants, but also supermarkets, 100yen shop and drugstores can be found, which meet the needs of all kinds of people. It is a crucial reason why Kagurazaka could keep thriving, I think.

I tried to name a street in Shanghai that is similar to Kagurazaka, but I failed finally. Some famous neighborhoods in Shanghai like Xintiandi Plaza and Hengshan Road do have Old Shanghai flavor, however, they, as scenic spots of Shanghai, are only equipped with expensive restaurants and bars. As a result, few local residents will go to these streets except

some domestic or foreign visitors. What a pity! As for Kagurazaka, on the contrary, it lives in the everyday life of local residents, which, as a characteristic of Kagurazaka, attracts me most.



▲神楽坂



▲上海新天地

英・ペッカム WS 体験記

Design Workshop in London

GCOE 国際設計演習のロンドン WS 体験記です！

M1 安東 政晃

5月20日(金)ー5月30日(月)イギリスはペッカム(Peckham)を対象地としたGCOE国際設計スタジオに、都市デザイン研からM1仲村、安東が参加しました。建築、都市工学の2専攻の混成チームで取り組み、現地では2日間の現地調査と5日間のワークショップを行い、ロンドンの都市構造の変化に伴い衰退していったペッカムをどのように再興出来るかを提案してきました。現地に到着したのが夜の10時頃で、その時まちは一見スラム街ともとれる様な荒れた様相でしたが、現地に滞在し調査することで、そこに住む人々の生活や繋がり、1日のサイクルなどが伺え、ペッカムという街の可能性を感じるとともに、一目ではわからない街の実態を知ることができ、「まちを知るために実際にまちで生活してみる」ということの大切さを知りました。今後のプロジェクト活動をするにあたって、とてもいい経験になったと感じています。

今後は現地で得られた情報をもとに、実際に行われているペッカム再興の議論に、東京大学として提案をする予定です。



▲ラフバラ大生とのディスカッション



▲WS後の写真。お疲れさまでした！

プロジェクト報告



鹿児島プロジェクト

今年度初の鹿児島PJ現地調査報告です！

M1 仲村 貴文

6月4日(土)ー8日(水)に、今年度初の現地調査が行われました。4月に龍谷大に移られた阿部先生も参加し、市役所の方にご案内いただきながら鹿児島市街地の建物調査、郊外の吉田・吉野の地域を視察しました。また、まち歩きの拠点となる施設、USK(Urban Station Kagoshima)の候補物件も視察し、私達のイメージがより具体的にいった瞬間でもありました。毎夜開かれる宴では、市役所の方の『鹿児島を良くしたい!!』という熱意が伝わり、私達もその責任の重さとやりがいを感じる5日間となりました。



▲人文字でつくるUSK

6月の予定

- 6月11日 大槌PJ現地訪問
- 6月12日 清水PJ現地調査
- 6月14日 2011年度第4回研究室会議

馬場さん(D3)の著書がポーランドで出版されました！

▶ Baba, Y. (2010) Modern or "unmodern"? Understanding the landscape disputes of Kyoto Tower and Kyoto Station in Politechnika Krakowska (ed.) Krajobranz Kulturowy Japonii, Krakow.

Information



編集後記

北川 貴巳

先日、母の知人のピアノリサイタルに行ってきました。その席で聞く音は体の中に自然と染み込んでいくようで、涙が流れる程でした。他人の音楽を聴くだけでもこれ程感動できたのに、心を動かす旋律を考えた本人または演奏法を身に付けた本人は果たしてどれだけの感覚に陥るのだろうか、ということが頭の中をずっと駆け巡りながら初のマガジンを執筆したのでした。